

1 主眼

- (1) 全員で学び、目標を達成する成功体験を実感させることで、全員と関わる重要性を実感させる。
- (2) 「学校」では、多様な人との関わり方を知り、全員がハッピーになる学校をつくる姿勢をもたせる。

2 学習過程

週	学習内容	指導上の留意点	形態	時間
導入	1 自己紹介をする。 ・授業者から始める。数名の生徒は、特技などを踏まえて自己紹介する。(任意)	・理科が得意な人、体育が得意な人など教科によって、得意な人が異なることに気づかせる。	全	5
	2 本時のめあてを確認する。			
	めあて「全員が、学校で何をどのように学ぶべきかを知り、全員でハッピーになる。」			
	3 本時の評価基準を確認する。			
	評価 B「全員が、『学び合い』のポイントを説明できる」 評価 A「全員が一生涯幸せになるために必要なものを説明できる」			3
発展	4 「何のために学校に来ているのか」について考える。 ・勉強をするため ・部活のため ・友達と楽しく過ごすため	・KRを通して、回答の本質に迫る。 ・「仲間」がないとできないことに気づかせる。 ・「理想の大人になるため」であることを確認する。  ・これらの理想像に近づくために、どのような能力や価値観が必要かを問う  ・通常の講義型の学習を想起させる。 ・自分以外の周囲の仲間の状況が把握できないことに気づかせる。 ・わからないときに、わからないといいにくい雰囲気ができることに気づかせる。	全	5
	5 「理想の大人像」をイメージする。 ・誰にでも優しい大人 ・何事にも挑戦する大人 ・人に親切にできる大人			
	6 演習1に1人で挑戦する。 ・友達に質問してはいけない。 →「言葉」を発してはいけない。私語禁止。 ・先生の話をよく聞くこと。・自分の席から離れない。 ・制限時間内に、自分なりの答えを導き出すこと。		個人	5
	7 「理想の大人」に近づくための3つのポイントについて知る。 (1) 学校は(理想の大人)になるところ (2) (自分たち)はすごい力を持っているんだ。 (3) 絶対に、誰一人(見捨てない)。 ・つまり、「全員で全員がハッピーになること」			
	8 演習2に全員で挑戦する。 ・教室を出なければ何をしてもよい。 ・答えを写すだけでなく理解すること。 ・制限時間内に全員が理解すること。			
終末	9 交流のようすの評価を聞く。 ・こんなときはどうすべきか考える。 ①残りの人が1人になってしまったら…。 ②仲間に教えるときの目線について。 ③いっしょに学習するときの注意点 ④「個別」と「孤立」のちがいについて。など。	・自分が最後の一人だったら仲間にどうしてほしいか考えさせる。 ・目線について考えさせる。 ・3人のグループでは、中に入ることも出ることも難しい。グループを固定化させることは非常に危険であることを伝える。	全	5
	10 まとめをする。 「人は必ず誰かに頼って生きている。子どもだから、大人だから関係ない。頼ることは決して悪いことじゃない。自立に向けた大きな一歩。全員が1つになれるということは、全員が支え合えるということは、本当にハッピーなことなんだ。」			
	10 挑戦状を読む。 「じゃんけんで5回勝ったら座れる。だれが1番とかではなく、全員が座れるまでの時間をできるだけ短くせよ。」	・最短記録は37名で4秒以内であることを伝え、宿題とする。	全	2